

1996年度(1996年4月1日~1997年3月31日)

- ①第6回総会及び講演会開催 於:ホテル竹園(6月8日)
(社)日本腎臓移植ネットワークの役割と実績
講師 前川正信 日本腎臓移植ネットワーク近畿ブロックセンター長
- ②会報「Gift of Life」Vol.4 発行 (6月)
- ③神戸新聞に啓蒙広告掲載 (10月13日)
「Gift of Life 元気なうちに意思表示を」兵庫県内53万部配布
- ④腎移植推進月間事業 (10月20日)
「Gift of Life in ひょうご元気にうちに意思表示を」主催
於:神戸ハーバーランドセンタービル スペースシアター
臓器移植を考える県民大会
徹底討論「脳死は人の死か」若杉長英先生
「これからの移植は」野本亀久雄先生 など
- ⑤コーディネーター菊地耕三・小中節子による
「学校教育における臓器移植の啓発活動」に対し助成 (10月)
- ⑥神戸大学大蔵山祭「移植シンポジウム」助成

1997年度(計画)(1997年4月1日~1998年3月31日)

- ①「1997年度全腎臓学会大会 in 神戸」後援、助成 (5月18日)
- ②会報「Gift of Life」Vol.5 発行 (6月)
- ③第7回総会及び講演会開催 於:神戸ポートピアホテル(7月12日)
講師 柳田邦男氏
(ノンフィクション作家・東京大学経済学科卒・元NHK記者)
テーマ 「いのちを救うとは」
- ④神戸新聞に啓蒙広告掲載 (10月)



Gift of Life

Vol.5

兵庫腎疾患対策協会会報

発行:兵庫腎疾患対策協会
住所:〒659 芦屋市船戸4-1
ラポルテ4F(安井眼科内)
TEL:0797-31-8288
FAX:0797-22-6144

ご挨拶



兵庫腎疾患対策協会
会長 石神 襄次

国際ソブチニスト神戸東はじめ、各種の団体、個人の方々の暖かい御支援の下に、本協会が設立されて6年を経過しました。その間、僕々への御協力を心より感謝を表します。お陰様にて、本協会を設立当時、掲げた目的に向かって進みつつあることは喜びに絶えません。一方、医療の著しい進歩、一般社会の腎に対する認識も色々の変化が起っており、腎移植の問題が、肝や心臓などの生体臓器と共に漸く臓器移植法案が衆議院を通過しました。然し、死者に対する概念の多様な我が国では、生体移植についても種々の意見があり、参議院での討議が問題となっております。

特に精神障害者に対する透析の看護方法、施設並びにそれに併う経済的課題が深刻な問題となりつつあります。これらの新しい課題に向かって、努力することも勿論本協会の重要な使命であることは言を待ちません。然し我々が掲げた設立時の目的は、腎に対する総合的対策の確立であり、人工透析も、移植もそのうちの重要な活動分野であり、乳幼児の腎疾患の発病を予防して、一人でも移植や透析に悩む人々を少なくすることが最高の目的であったと思います。早や後3年で21世紀を迎える今日、我々設立当時の初心に帰って、人工透析も臓器も必要としない社会の到来に努力すべきと考えます。

又、人工透析等の進歩と、一般寿命の高齢化と共に、高令者、

法律は万能ではない

神戸大学医学部附属病院長
泌尿器科教授 守殿 貞夫

臓器移植法案が随分と新聞紙上を賑わし、脳死をヒトの死と認めらるゝいゆる中山案が去る4月に衆議院で可決されたことは、皆様よくご承知の通りであります。移植医の立場で考えますと、確かに法律で脳死状態での臓器摘出が認められることは、移植医療の前進を意味することとして、素直に歓迎すべきことではあります。しかし、脳死の判定が、移植医以外の第3者の医師団により厳格に行われることが必須の大前提であります。翻って、移植を考える上で最も重要なことは、自分の臓器をなるべく新鮮な状態で、移植を待ち望んでいる患者さんに提供したいと思っている方の意思が無駄なく実現されるシステムを構築していくことであると、私は考えております。

もし自分が脳死状態に陥ったなら、臓器を提供したいか否かは、各個人の選択権に委ねられるべきであることは当然であり、このことを国民が等しく理解して、自己の意思を示すことが理想であります。この観点から考えますと、義務教育の過程で、脳死および移植という問題を深く理解させ、そのうえに立って、自己の意思を、例えば成人になる時点で、肯定、否定、保留といった形でカードに書き込む。そしてそのカードは、他のヒトに見せる義務はない。嫌なら携帯する義務はない。というようなシステムがひとつは考えられるでしょう。この方法にも、問題がないわけではなく、意思表示がファッション化して、哲学という深さに根ざさなくなる危険も感じますが…。臓器移植法案が成立したならば、みんなでも一度よく考えて、システム作りを急ぐ必要があると考える次第です。

お願い

協会の活動のため、ひきつづき温かいご支援をお願いいたします。

ご寄付・会費振込口座

・さくら銀行 芦屋駅前支店 ⑤ 3511181 兵庫腎疾患対策協会
・郵便局 神戸01110-1-9421 兵庫腎疾患対策協会

1997~1998年度兵庫腎疾患対策協会幹事

会長	石神 襄次	守殿 貞夫	田口 隆子	福西 孝信	芳野 芳一
	荒川 創一	菊地 耕三	寺 柚一徳	藤岡 農宏	吉永和正
	生駒 文彦	後藤 武男	豊永 清	藤田 嘉一	国際ソブチニスト神戸東
	井上 聖士	小中 節子	中道 弘一	松本 修	
	井原 英有	坂井 留実	長久 謹三	森村 美佐子	
	金津 和郎	高光 義博	八馬 富久子	安井 多津子	
会計監査	黒丸 正四郎	西村 多枝子			

(50音順)

救急医から見た献腎移植



献腎移植の症例数はこの数年、伸び悩んでいます。移植希望者の登録と比べてドナーの数が非常に少ないのが現状です。その原因の一つとして救急医の協力を得ることの困難さがあげられています。救急医の多くは移植医療が有効な医療手段であると考えており、移植そのものに反対する救急医はごくわずかです。にもかかわらず救急医の協力がなかなか得られないのはなぜでしょうか？それは、臓器提供に関わることが救急医の大きな負担となるからです。その負担としては精神的なものや時間的なものがあげられています。後者の時間的なものに関しては日本腎臓移植ネットワークの専任コーディネーターが活動するようになってからは随分と改善されてきました。現在、大きな問題として残っているのは救急医の精神的負担という問題です。

救急医は患者さんが回復することを目指して全力投球します。しかし、現代の医学にも限界があり、その限界を超えるてしまうと不可逆性の変化が起こります。脳全体でこの不可逆性の変化が起こると最終的には脳死と呼ばれる状態になります。脳死は現在の医学では絶対に回復することがありません。患者さんが脳死になったということは救急医にとっては患者さんを救えなかったということです。この状態を家族に説明するのは救急医にとってはとても気の重いことです。もし移植の話をするとなると、この時期しかありませんが、心停止前から心停止後の話を切り出すなど簡単にできること

兵庫医科大学救急部
講師 吉 永 和 正
副部長

ではありません。これは救急医に大きな精神的負担を強いることになります。では救急医はこの問題を避けて通ってもよいでしょうか。私の答は「否」です。

救急医の役割は患者さんやその家族の利益を最大限に守ることにあります。患者さんや家族が腎臓提供に反対の立場であれば、腎臓提供に關しての行動をなにもしないことがこの人たちの意に沿うことになります。しかし、腎臓提供の意思をもっている場合、何も行動を起こさなければ折角の善意が生かされないことになります。もし、意思確認をしなかったとすれば患者さんの利益を守ったとはいえません。患者さんの利益という観点からすると救急医が意思確認を行うしかなのです。

救急医の精神的負担という問題ははどうしたら解決できるでしょうか。最も良い方法は患者さんそれぞれの意思が明確に示されていることです。はじめから意思がはっきりしていれば救急医はなにもためらうことはありません。その方策の一つとして「意思表示カード」の普及があります。このカードを多くの人が持ち意思が常に明らかな状態になることが理想です。しかし、国民全般に行き渡るのには遠い将来のことのように思えます。

現状では救急医が意思確認をするしかありません。では、どうしたら救急医の精神的負担を軽減できるかを考える必要があります。このような背景をふまえて、日本腎臓移植ネットワーク近畿ブロックセンターでは近畿腎臓提供施設連絡協議会の協力を得て全国に先がけて「救急医のための腎臓提供マニュアル」を作成しました。この中には腎臓提供の事例と共に、精神的負担を軽減するためにどのような切り出し方をしたらよいかなど具体的な方策が述べられています。このようなマニュアルを契機に一人でも多くの救急医がこの問題に取り組んでくれればと願っている次第です。

「“Gift of Life” in ひょうご」を開催

(兵庫腎疾患対策協会と関連7団体)

平成8年10月20日・神戸ハーバーランド

平成8年10月20日、当協会主催、(財)兵庫県総合保健協会をはじめ関連7団体の共催により、神戸ハーバーランドのスペースシアターにおいて「Gift of Life in ひょうご」を約2,000名の参加のもとに開催しました。

このイベントは、10月の腎移植推進月間に因み、腎移植推進を目的として、各団体のパネル展示や、意思表示カードの配布、また、(財)兵庫県総合保健協会による講演討論会など一般市民の理解を得るために開催しました。実施にあたっては各団体代表者による実行委員会(委員長福西孝信先生)を構成し、次のようなイベントを実施運営しました。

- ④意思表示カード配布 国会請願署名 兵庫県腎友会
 - ⑤献腎登録 (財)兵庫県総合保健協会腎バンク
 - ⑥クイズ大会 兵庫県腎友会・賞品提供ジャスコ(株)他
 - ⑦チャリティバザー 国際ソロプチミスト神戸東兵庫腎移植の会
 - ⑧アトラクション
 - a. ストリートパフォーマンス「つぶつぶオレンジ」
 - b. カントリー&オールディーズ「ジ・エルメス」
- 兵庫県腎友会
副会長 豊 永 清 記

- ①パネル展示 兵庫県腎友会・(財)兵庫県総合保健協会 (社)日本腎移植ネットワーク・兵庫腎移植の会
- ②医療相談会 兵庫県透析医会・兵庫県泌尿器科医会 (社)日本腎移植ネットワーク
- ③臓器移植を考える県民大会 (財)兵庫県総合保健協会
講演と討論「脳死は人の死か」
若杉 長英 先生 大阪大学医学部法医学教室教授
野本 亀久雄 先生 九州大学生体防御医学研究所教授
吉永 和正 先生 兵庫医科大学救急センター講師
放映-平成9年1月16日「すこやかひょうご」サンTV
記録-(財)兵庫県総合保健協会発行
「早期復興をめざし一人ひとりが健康づくり」



お知らせ

第7回総会及び特別講演会

日 時
場 所
内 容

平成9年7月12日(土)
神戸ポートピアホテル 大輪田の間

- 総会 PM4:00~PM4:30
平成8年度収支報告・平成8年度事業報告・平成9年度事業計画 他
- 柳田邦男特別講演会(入場無料) PM5:00~PM6:00
テーマ:「いのちを救うとは」
講 師: 柳田 邦男 (ノンフィクション作家 東京大学経済学科卒 元NHK記者)
番 書: 「ガン回廊の朝」「犠牲-サクリファイス-」「死の医学への序章」他
主催: 兵庫腎疾患対策協会 共催: 神戸新聞社 後援: 兵庫県 兵庫県総合保健協会/兵庫県医師会/神戸市医師会
兵庫県看護協会/兵庫県透析医会/日本腎臓移植ネットワーク近畿ブロックセンター/国際ソロプチミスト神戸東
- 親睦会 会費:10,000円 PM6:30~PM8:00

